

甲斐市立竜王小学校 自己評価書

令和3年2月1日（月）作成

校長 「 小尾 一彦 」 記述者 職名 主幹教諭 「 久保田 勲 」

学校教育目標 「明るく元気な竜の子」の育成

- ・た・・・助け合う子ども・・・（情）
- ・つ・・・強い心を持った子ども・・・（意）
- ・の・・・伸び行く体の子ども・・・（体）
- ・こ・・・根気強く学ぶ子ども・・・（知）

学校経営方針

- （１） 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- （２） 児童一人一人の自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- （３） 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- （４） 特色ある学校づくりに努める。
- （５） 安全・安心な学校づくりに努める。



1 全体評価

本校の学校評価は、平成 28 年度より年 1 回の実施となり、11 月に実施している。また、学校評価は次の全 6 観点で行っている。

- I 学校教育目標・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色に関して

また、教職員自己評価及び保護者用アンケートのそれぞれの設問は、右のような 5 段階評価で、小学生用アンケートについては 4 段階評価で行っている。教員自己評価において、「E：わからない」については担当外の場合のみつけている。また、年 1 回の実施のため、昨年度の結果を踏まえながら検討している。

5 段階評価〈教職員・保護者〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

4 段階評価〈小学生〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）

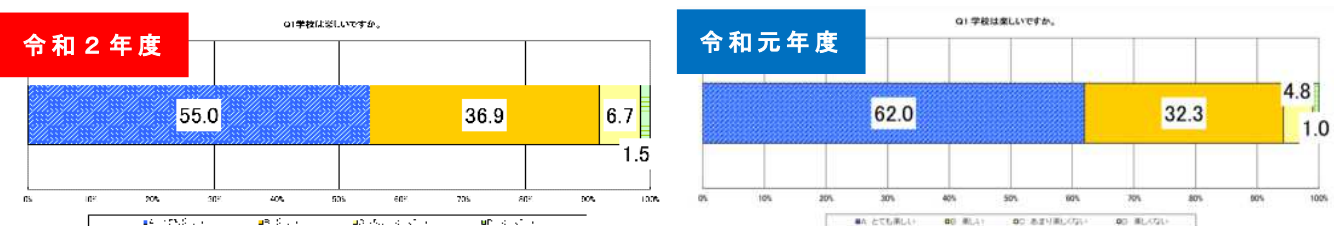
（１）教職員自己評価について

「すべては子供の幸せのために」を合言葉に、校長を中心に学校教育目標の具現化を目指し、「チーム学校（チームドラゴン 2020）」として協働し、研鑽を積んできている。学習規律「明るく元気な竜の子 15 箇条」を基盤とした授業改善や生活指導が、教職員が入れ替わっても安定して実践できるように、共通理解を図るための研修を行っている。そして組織的な指導を行うことで、子供たちの落ち着いた学校生活につなげている。

今年度の教職員自己評価も、ほとんどの設問で「A+B の肯定的評価」が 95% 以上となり、教職員が子供たちのために誠実に職務に専念している姿勢が表れている。

（２）小学生アンケートについて

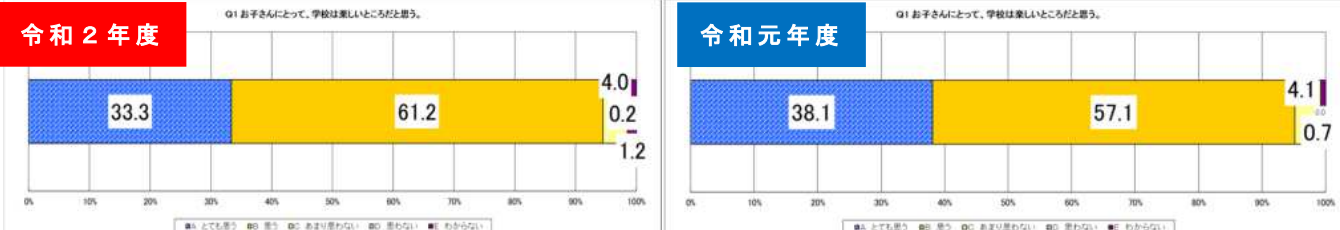
「学校は楽しいですか。」の肯定意見が約 92% となり、多くの児童が学校生活に満足する状況である。一方、否定意見の児童が、昨年の 5%（24 名）から約 8%（33 名）になり増えている。コロナ禍の中、いつもと違う生活スタイルに馴染むことが難しかったことなども影響しているのではないだろうか。日常的に子供たちとかかわる中での見取りや QU 調査等により、気になる児童についての共通理解を教職員間でとりながら、継続的に対応している。今後もきめ細かな指導を行っていくことが必要である。



Q 学校は楽しいですか。（児童アンケート）

（３）保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見は約 95% だった。昨年度までと同様、学校に対して好意的な評価であることがわかる。



Q お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。（保護者アンケート）

2 観点ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標・学校経営について

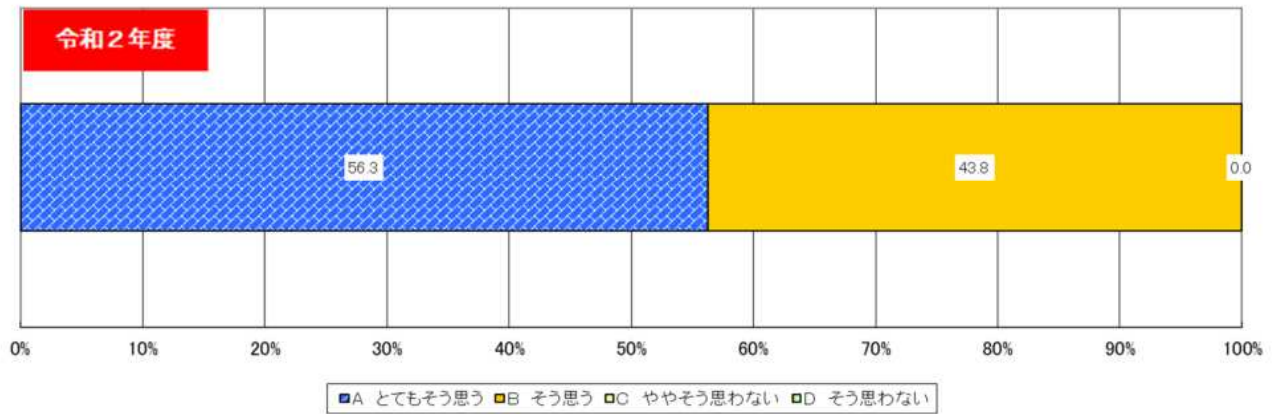
（１）達成状況について

番号	I 学校教育目標・学校経営について 質問内容	令和2年度				令和元年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない	とても思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている。	84.4	15.6	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0
2	あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	68.8	31.3	0.0	0.0	74.3	25.7	0.0	0.0
3	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	87.5	12.5	0.0	0.0	77.1	22.9	0.0	0.0
4	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	78.1	21.9	0.0	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0
5	あなたの学校は、P-D-C-Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。	81.3	18.8	0.0	0.0	65.7	34.3	0.0	0.0
6	あなたは、P-D-C-Aサイクルを生かした教育活動を行っている。	56.3	43.8	0.0	0.0	51.4	42.9	5.7	0.0
7	あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。	65.6	34.4	0.0	0.0	54.3	42.9	2.9	0.0
8	あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。	60.0	36.7	3.3	0.0	77.1	22.9	0.0	0.0

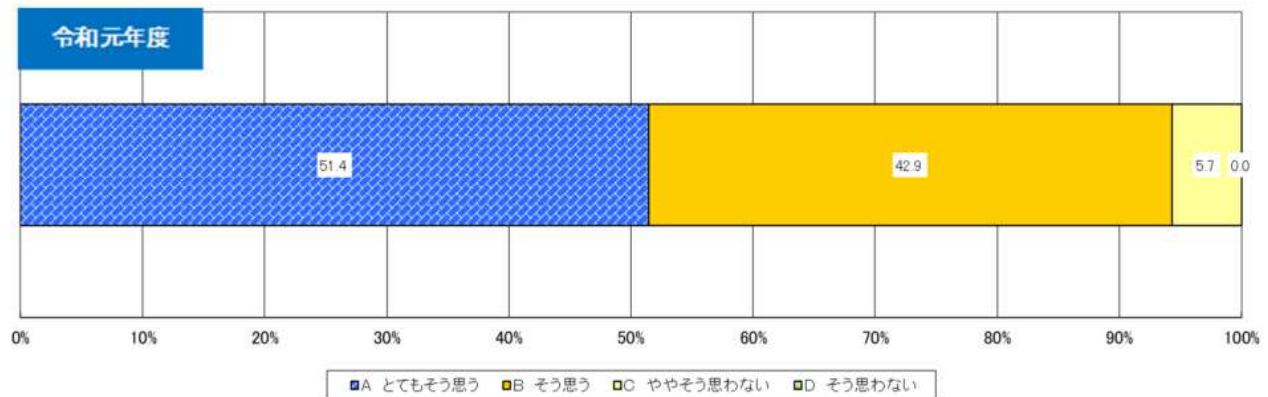
学校教育目標や学校経営について、ほぼ全員の教職員が肯定的な意見であり、高い数値が見られた。学校教育目標をもとに学校経営がなされ、一定の成果を得ているという実感があるものと考えられる。

一方、一人一人の教員の PDCA サイクルによる教育活動の改善、職場の福利厚生や健康管理についての配慮、特別支援教育の体制整備と機能化において、比較的低い数値が見られる。特に番号 8 の設問では、「C: ややそう思わない」の回答率が 3.3%（1 名）となっている。

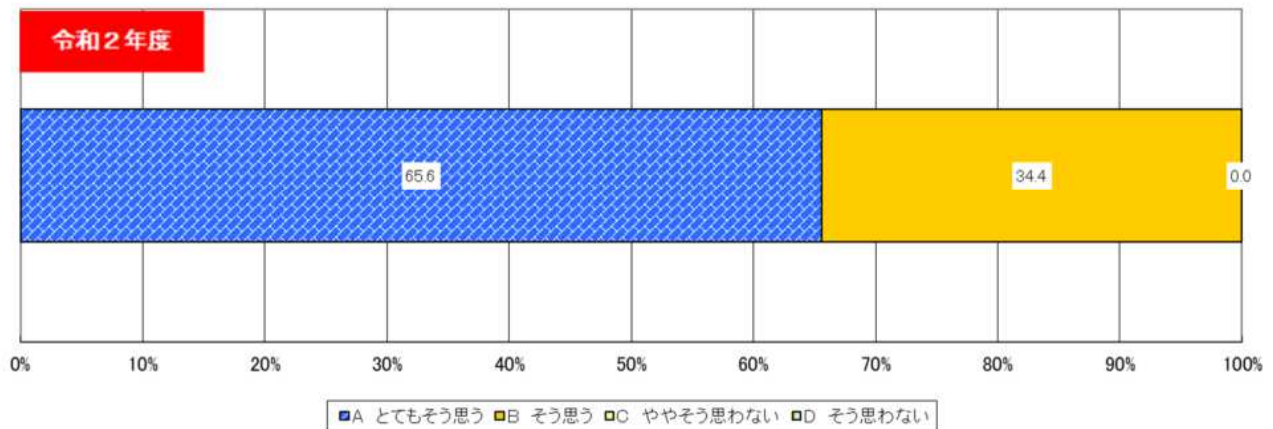
I-6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。



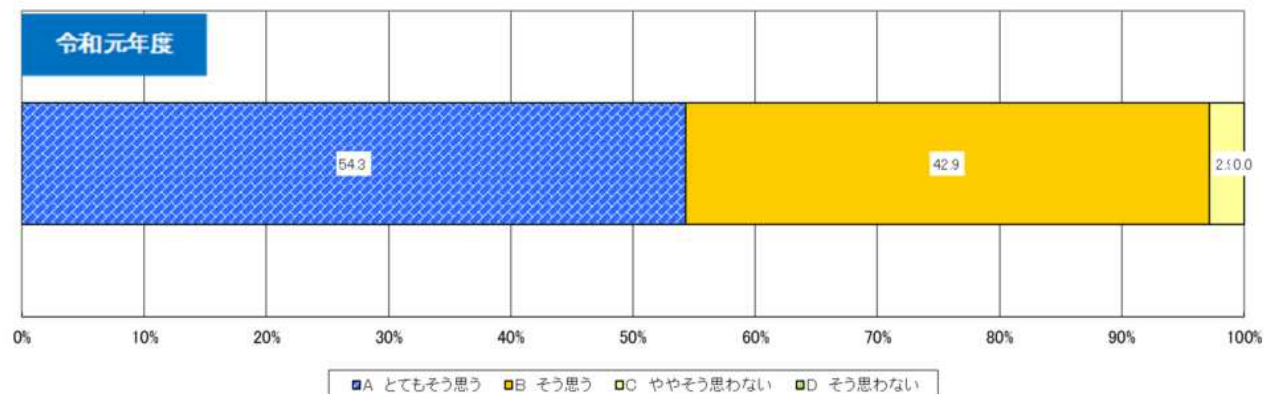
I-6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。



I-7 あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。



I-7 あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。



(2) 改善策について

- ① 本年度より全面実施となった新学習指導要領で求められるカリキュラム・マネジメントについての全教職員への理解を，研修などを通してより深め，PDCAを活用しながら効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指した改善を図っていく。
- ② 引き続き，管理職を中心とした多忙化解消への取組を行う。責任の重い仕事については複数人で取り組んだり，適材適所に人材を配置したりするなど，より組織的に取り組んでいくようにする。また，事務処理等については校務支援システムの積極的に進め，一人一人の教職員の負担を軽減していくようにしていく。

Ⅱ 学校運営について

(1) 達成状況について

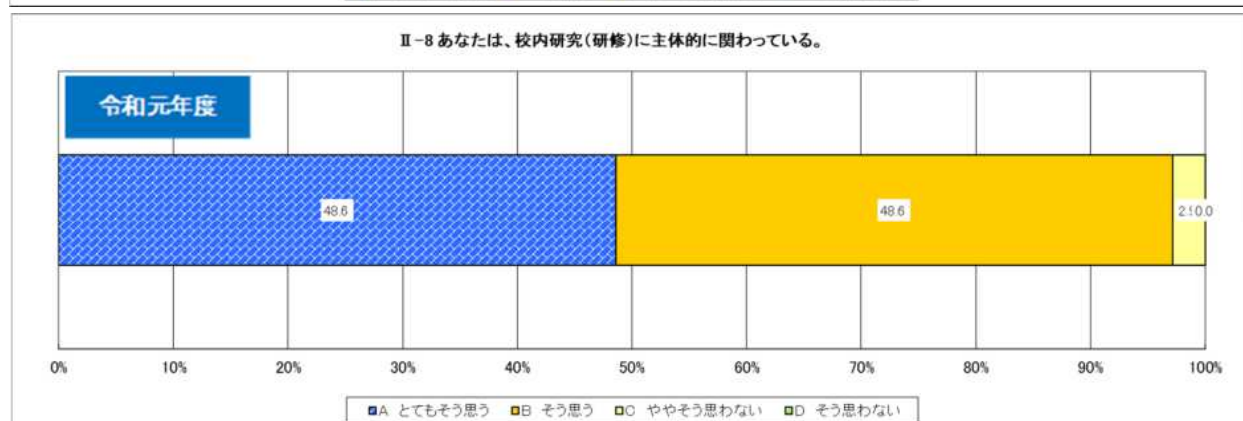
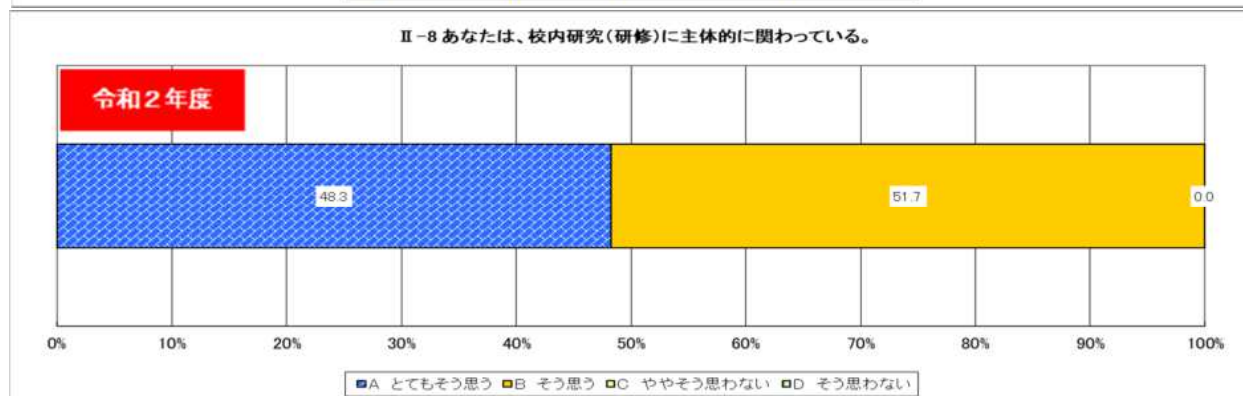
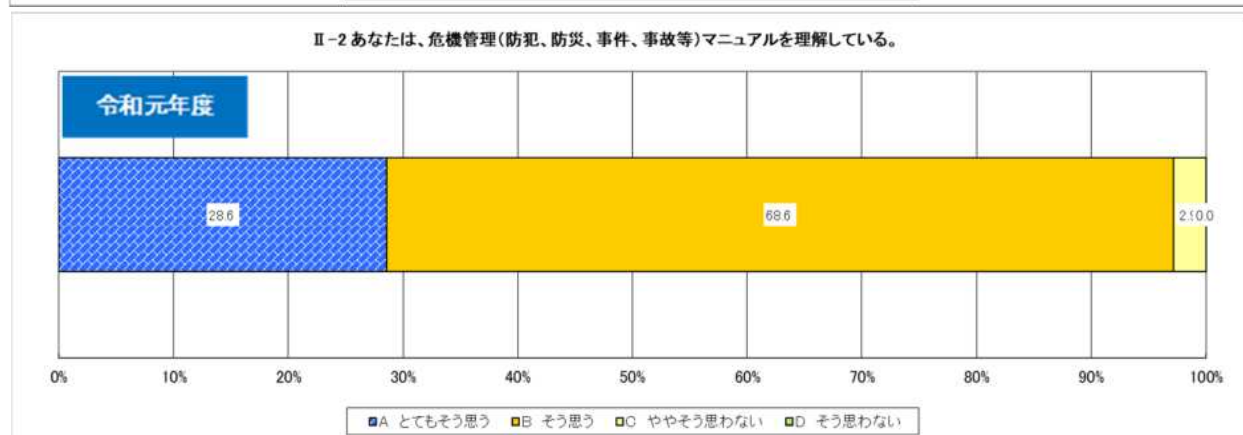
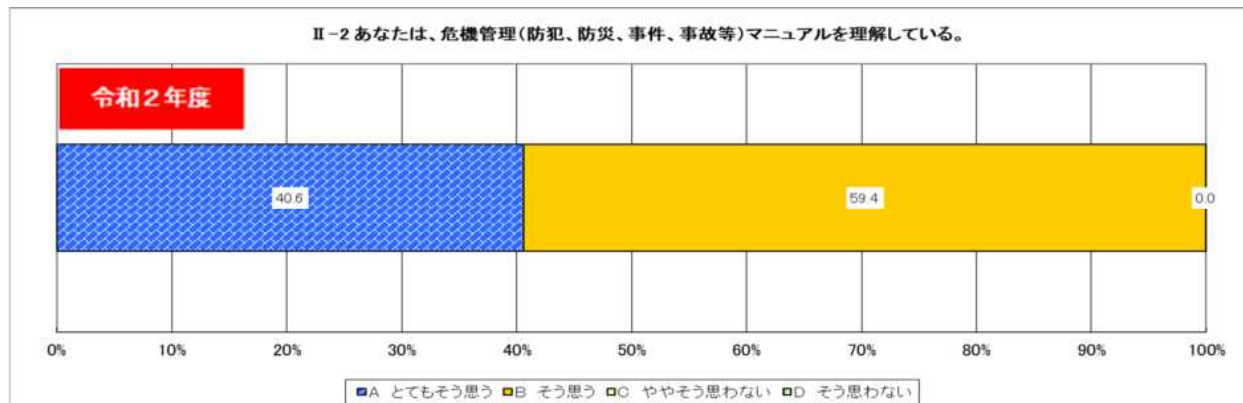
番号	Ⅱ 学校運営について 質問内容	令和2年度				令和元年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告（整備・保全）している。	67.7	32.3	0.0	0.0	60.0	37.1	2.9	0.0
2	あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。	40.6	59.4	0.0	0.0	28.6	68.6	2.9	0.0
3	あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	78.1	21.9	0.0	0.0	54.3	42.9	2.9	0.0
4	あなたの校務分掌は、学校運営上、機能している。	62.5	37.5	0.0	0.0	51.4	45.7	2.9	0.0
5	あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。	53.1	46.9	0.0	0.0	51.4	42.9	5.7	0.0
6	あなたは、他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。	81.3	18.8	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0
7	あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	81.3	18.8	0.0	0.0	68.6	31.4	0.0	0.0
8	あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。	48.3	51.7	0.0	0.0	48.6	48.6	2.9	0.0
9	あなたは校務支援システムを十分活用できていますか。	37.9	62.1	0.0	0.0				

すべての項目において肯定的な回答であり，多くの教職員が主体的に学校運営に関わっているといえる。特に番号6，7については非常に良い数値を示しており，毎日の学校運営が，まさに「チームドラゴン2020」として，管理職や他の教職員とコミュニケーションをとりながら協働して行われていることがうかがえる。

一方，設問2については，昨年度よりは改善してきているが，今後も，すべての教職員が「危機管理マニュアル」を十分に把握し，職務にあたることのできるようにしてい

かなければならない。

また、設問 8 については、教職員一人一人が、教師力、授業力について向上心をもちながら振り返り、評価しているため、比較的、厳しい自己評価になっているものと考えられる。設問 9 については、今年度から本格稼働を始めたシステムであるので、今後も日々活用しながら、使用に慣れ、校務効率化を図っていく必要がある。



(2) 改善策について

- ① 「危機管理マニュアル」のさらなる見直しと充実を図るとともに、日々の教育活動において「危機管理マニュアル」の活用を行っていく。そして、教職員に対する「危機管理マニュアル」の周知や訓練の実施を的確に行う。さらに、タイムラインを意識した防災教育を充実させ、「進行型災害」「突発型災害」に的確に対処できる子供たちの危機管理意識の醸成を行っていく。
- ② 1月29日(金)に行われた公開授業研究会では、本校の教職員一人一人が主体的に研究に関わりながら取り組み、プログラミング教育をはじめ ICT を活用した授業について素晴らしい成果を示すことができた。この成果を教職員一人一人に再度フィードバックし、今後の教育活動に効果的につなげ自信につなげていく。
- ③ 日々、校務支援システムを活用するように努め、使用に慣れ、校務の効率化を図り、児童に寄り添う時間を確保する。

Ⅲ 学習指導について

(1) 達成状況について

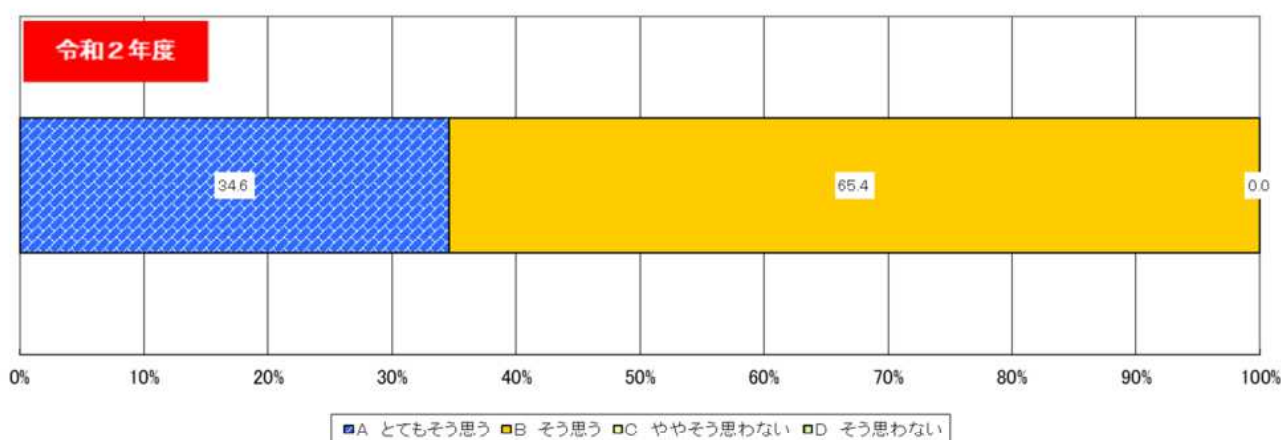
番号	Ⅲ 学習指導について 質問内容	令和2年度				令和元年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	66.7	29.2	4.2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	46.2	53.8	0.0	0.0	44.4	51.9	3.7	0.0
3	あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。	53.8	46.2	0.0	0.0	48.1	51.9	0.0	0.0
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。	53.8	46.2	0.0	0.0	48.1	48.1	3.7	0.0
5	あなたは、評価基準と評価方法を明確にした授業を行っている。	34.6	65.4	0.0	0.0	22.2	70.4	7.4	0.0
6	あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。	53.8	46.2	0.0	0.0	40.7	55.6	3.7	0.0
7	あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。	42.3	57.7	0.0	0.0	33.3	63.0	3.7	0.0
8	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	53.8	46.2	0.0	0.0	37.0	51.9	11.1	0.0
9	あなたは、思考力・判断力・表現力を伸ばすような問題解決型授業に取り組んでいる。	50.0	50.0	0.0	0.0	33.3	63.0	3.7	0.0
10	あなたは、ALT との外国語(英語)学習を実施する中で、国際理解を高める指導を行っている。	28.6	66.7	4.8	0.0	28.0	60.0	8.0	4.0

全体的に昨年度と比べてA評価の値が高くなっている。経験豊かなベテラン教員とやる気に満ち溢れる若手教員が学年内で協働し、授業力向上に努めている結果が現れていると考えられる。

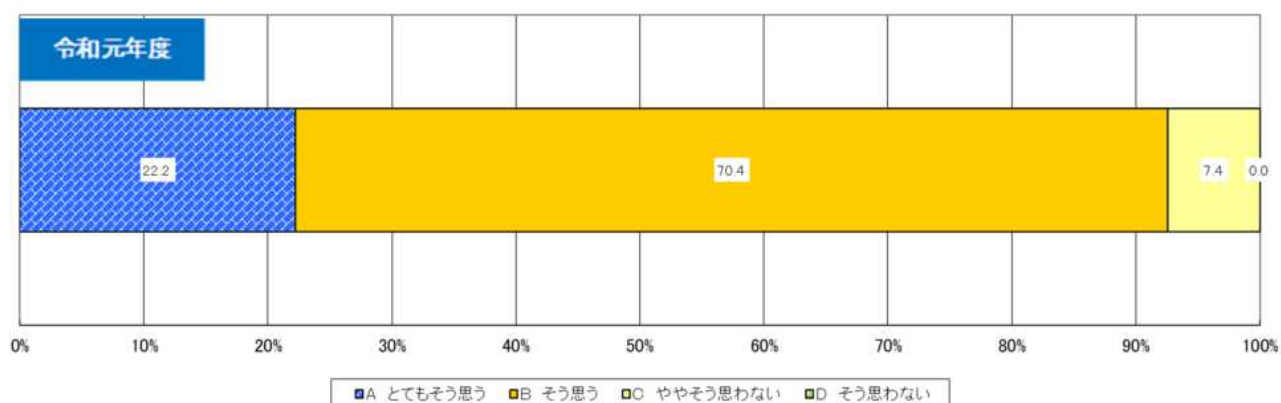
特に、学級、学年、学校集団作りについてと基礎・基本の定着を図る授業の実施については、よい数値が表れている。本校が取り組む「学習規律」や「ほめ言葉のシャワー」をはじめとする学びに向かう姿勢づくり、また、ICTを活用し学習意欲の喚起を促す授業実践を通して、教職員一人一人が意識しながら取り組んできた結果であろう。

その他の設問についても、おおむね良い結果が得られているが、設問5、設問10において、「A:とてもそう思う」ではなく、「B:そう思う」と評価しているものが比較的多くなっている。評価規準と評価方法の明確化については、今年度より通信表の評価が観点別評価となり、その評価規準の設定について、試行錯誤を繰り返し、それでよかったと確証を得るまでに至っていないことが考えられる。また、国際理解教育への取組については、本校は加配として英語専科教員の配置がかなっていないため、学級担任の担うべき役割について、ALTと英語専科教員との間で、十分な打ち合わせ時間を確保できていないことに起因しているのではないだろうか。

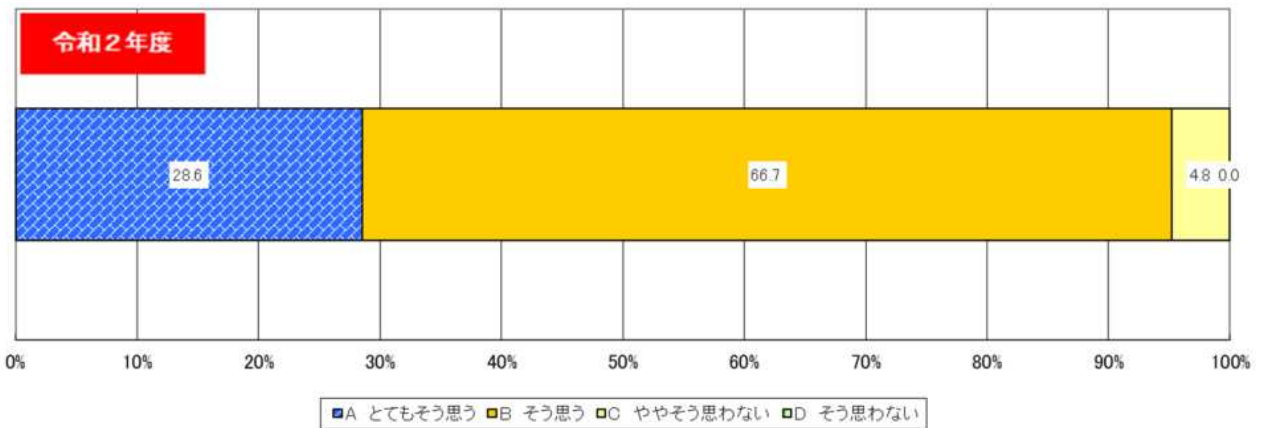
Ⅲ-5 あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。



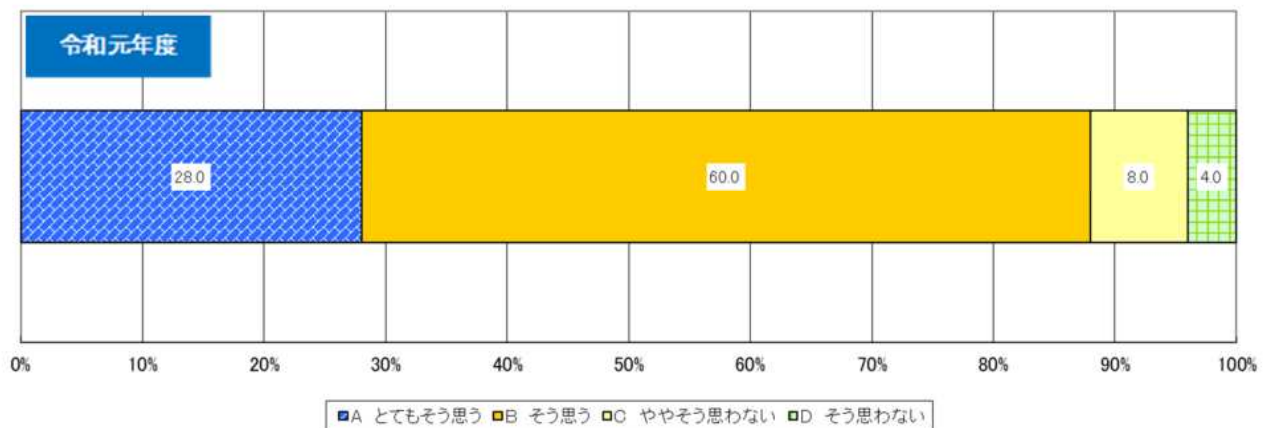
Ⅲ-5 あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。



Ⅲ-10 あなたは、ALTとの外国語(英語)学習を実施する中で、国際理解を高める指導を行っている。



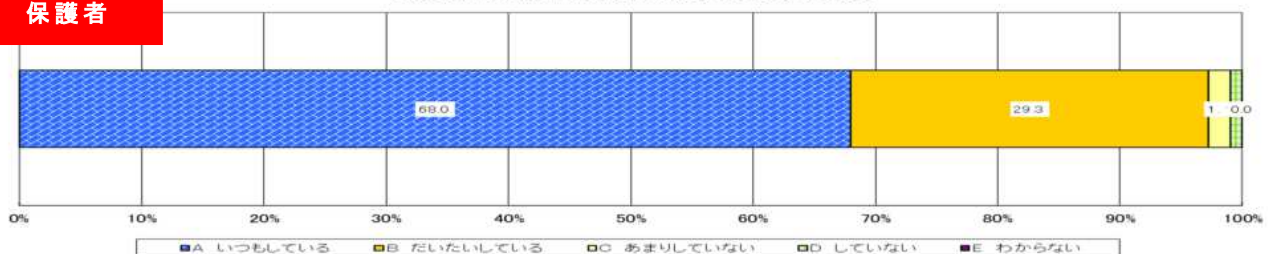
Ⅲ-10 あなたは、ALTとの外国語(英語)学習を実施する中で、国際理解を高める指導を行っている。



一方、甲斐市では、家庭学習の目安として「学年×10分+10分」としている。小学生アンケート、保護者アンケートを見ると、「宿題を忘れずにしている」という設問において、約95%の子供たち、約97%の保護者が肯定的な回答をしている。これは昨年度とほぼ同様の結果であり、家庭での学習がほぼ定着している様子がうかがえる。しかしながら約4.8%の子供たちが「C:あまりしていない」「D:していない」と回答しており、家庭学習への取組のさらなる指導が必要である。

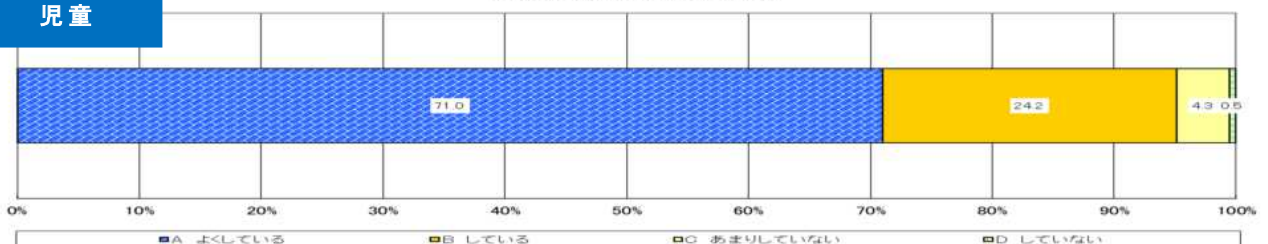
保護者

Q12 お子さんは、宿題(課題)を忘れずにしていますか。

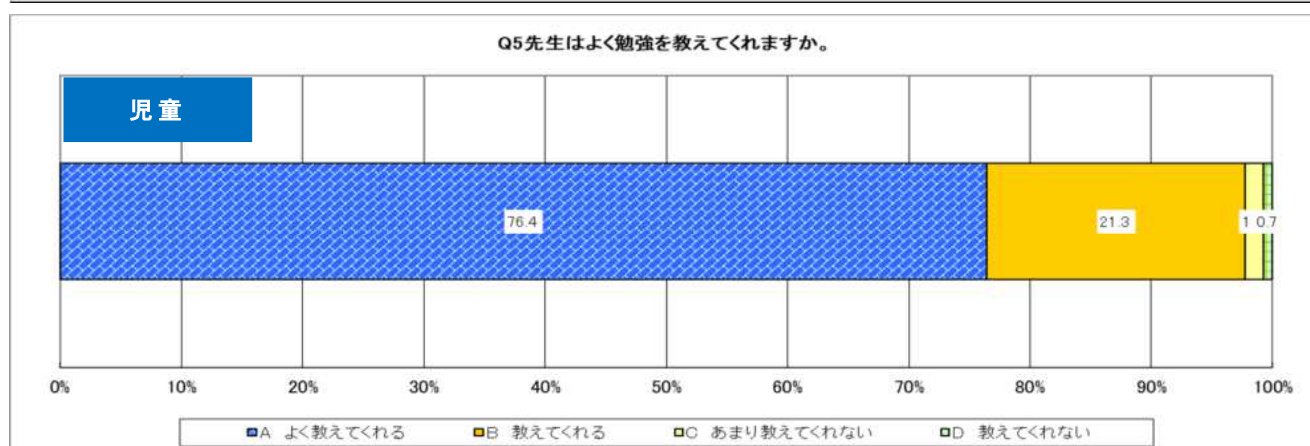


児童

Q16宿題を忘れずにしていますか。



さらに授業についてのわかりやすさを問う設問でも、約 98% の子供たちが「先生はよく勉強を教えてくれる」を回答しており、昨年同様に学校における毎日の授業が充実しており、子供たちが満足している様子が見受けられる。また、保護者アンケートも、昨年度と同様に高い評価を得ていることを示している。



(2) 改善策

- ① 教職員全員が自信をもって教育活動にあたるためには、組織的な取組が必要である。県が示す「やまなし教員等育成指標」に基づく研修やグロアアップ研修等を確実に実施できる環境づくりを行う。それと同時に、校内研究会や一人一実践、OJTを生かしながら教職員一人一人の資質・能力の向上を図っていく。
- ② 学年主任を中心に各教科の学習評価を再確認し、新学習指導要領が示す「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を意識した評価を明確にして授業を行うようにしていく。学習の「めあて」がその授業の評価規準をもあらわしている。引き続き、「やまなしスタンダード」で求められる「めあて」の明確化を意識して、授業づくりを行っていきたい。
- ③ 年度のはじめに各家庭に配付している「家庭学習の手引き」や県が推し進めている「学びの甲斐善八か条」などを活用し、より家庭との連携を深めていく。また、学級懇談会や学年懇談会、個別懇談、学年だより等を通して、自主学習の取組方法など、各家庭への啓発に努めていく。

Ⅳ 生徒指導について

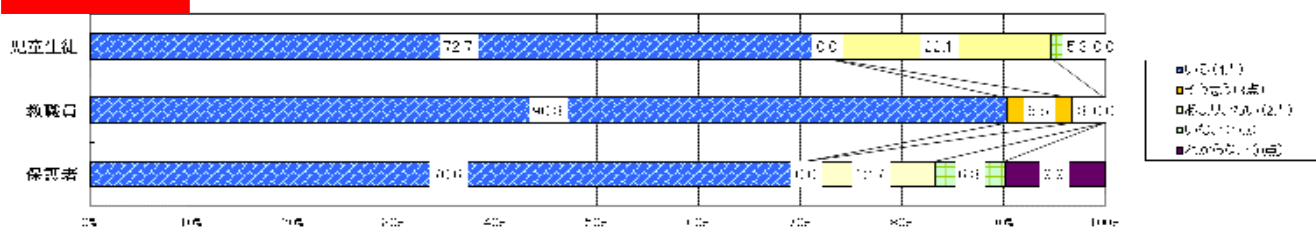
(1) 達成状況

番号	Ⅳ 生徒指導について 質問内容	令和2年度				令和元年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない
1	あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童生徒)	90.3	6.5	3.2	0.0	86.2	13.8	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒の規範意識をはくむ指導に取り組んでいる。	74.2	25.8	0.0	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0
3	あなたは、生き方教育（キャリア教育・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。	56.7	43.3	0.0	0.0	39.3	53.6	3.6	3.6
4	あなたは、問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができています。	63.3	36.7	0.0	0.0	39.3	57.1	3.6	0.0
5	あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。	74.2	25.8	0.0	0.0	65.6	31.3	3.1	0.0
6	あなたの学校は、児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている。	77.4	22.6	0.0	0.0	71.9	25.0	3.1	0.0
7	あなたは、「明るく元気な竜の子15か条」を意識して、生徒指導に取り組んでいる。	67.7	32.3	0.0	0.0	72.4	24.1	3.4	0.0

生徒指導についての達成状況についても、全体的に高い値を示しているといえる。特に「児童理解のためにコミュニケーションを図っている」という設問においては、「A:とてもそう思う」が90%と非常に高い値を示しており、本校の教職員が、子供たちに寄り添い、きめ細かな児童理解の上で教育活動を行おうとする意欲をよく表しているといえる。その成果は子供たちや保護者の意識にも表れており、学校に「相談できる先生がいる」という設問に対しても、非常によい結果が表れている。

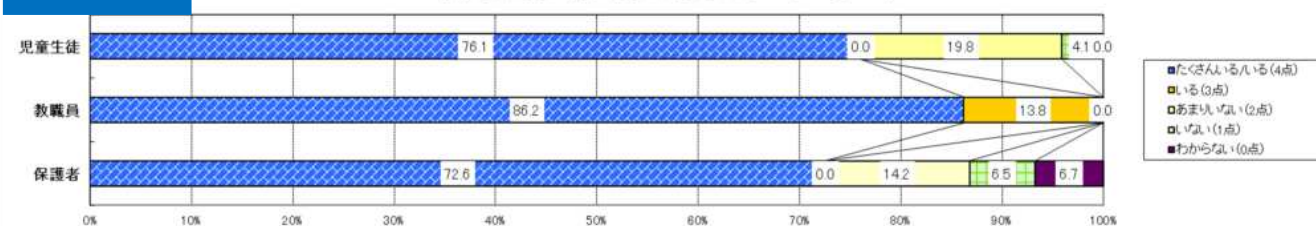
令和2年度

教師と児童生徒との関係～相談できる先生がいる(C-11・12、TⅣ-①、P-10)



令和元年度

教師と児童生徒との関係～相談できる先生がいる(C-10、TⅣ-①、P-15)



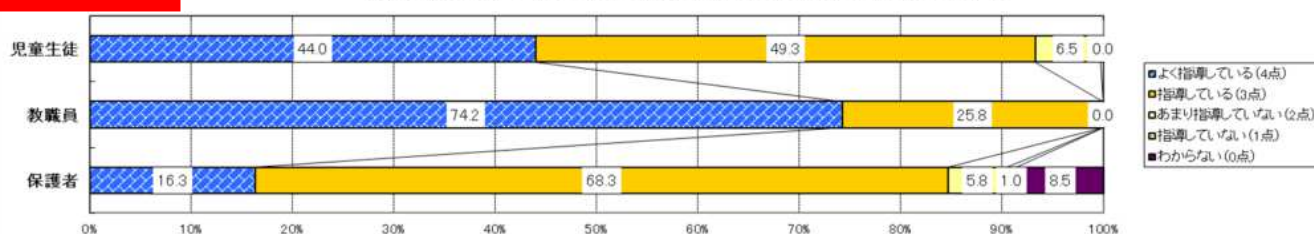
また、「明るく元気な竜の子 15 箇条」「児童の規範意識を育む指導」についての設問においても、比較的、高い意識をもって取り組んでいる様子がうかがえる。どちらも学習指導上の基盤となるものであり、規律ある生活習慣や学習習慣の構築が、確かな学力の育成には欠かせないものである。そのような意識は子供たちや保護者にも伝わっており、それぞれにより数値が表れている。これは本校のよき伝統であり、今後も継続していきたい。

一方「生き方教育」についての設問や「問題行動」についての設問に対する数値が比較的低く表れている。

キャリア教育等については、各教科、領域において、基礎的・汎用的能力の育成を位置づける必要がある。これまで取り組んできている指導内容が、十分にキャリア発達を促すことができていると実感できていないことに起因していると考える。

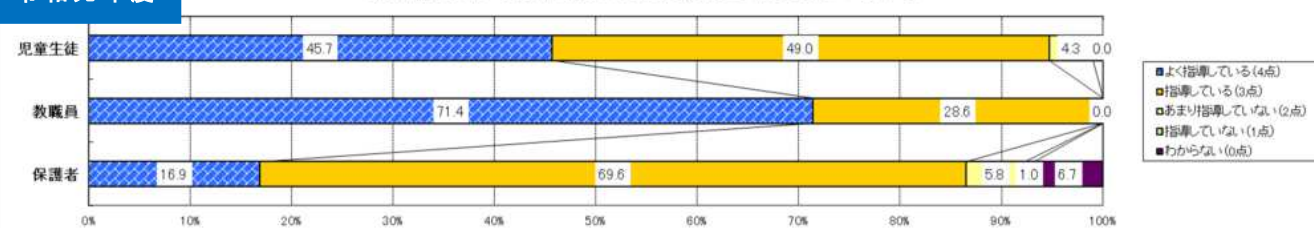
令和 2 年度

規範意識の高揚～きまりや約束を守るように指導している (O-12・13、TM-Q、P-7)



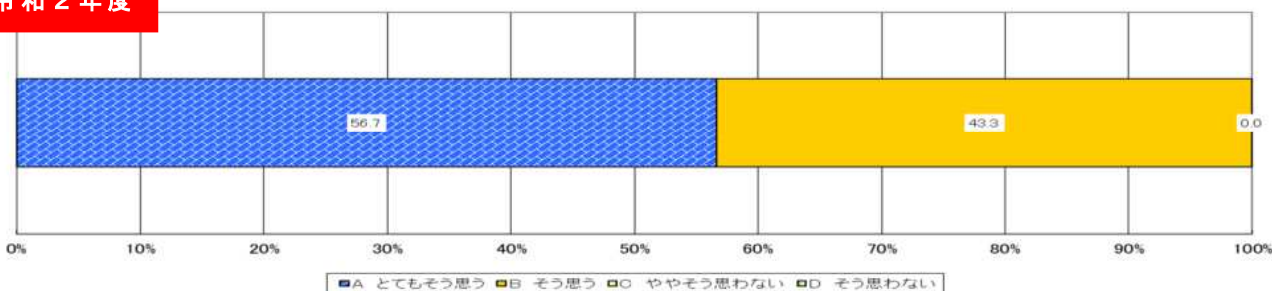
令和元年度

規範意識の高揚～きまりや約束を守るように指導している (O-21、TM-Q、P-6)



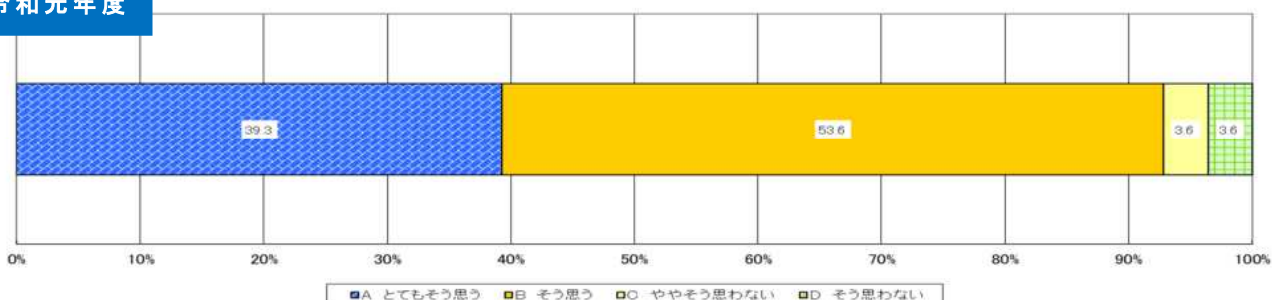
令和 2 年度

IV-3 あなたは、生き方教育(キャリア教育・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。



令和元年度

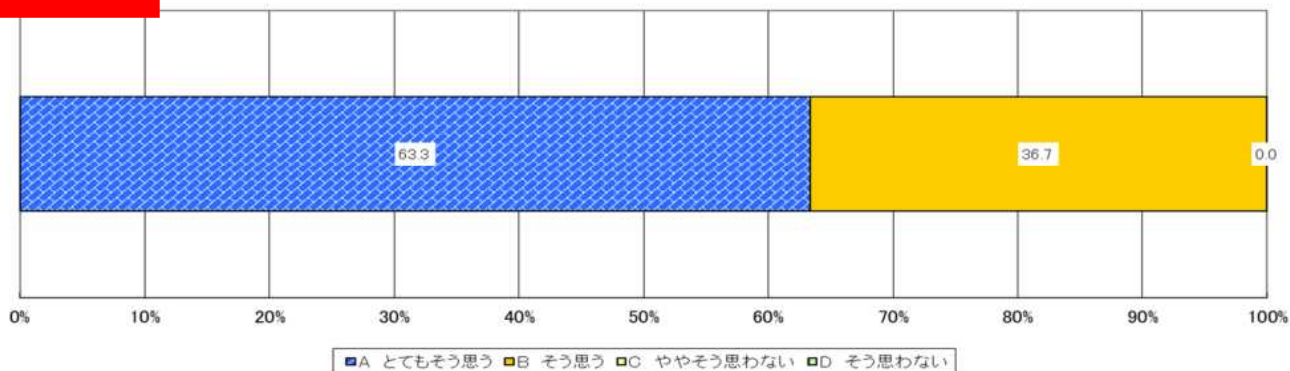
IV-3 あなたは、生き方教育(キャリア教育・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。



問題行動への対処については、「A:とてもそう思う」の回答率が昨年度より大幅に伸びていたが、他の項目と比べると、まだ、十分な結果とは言えない。問題行動の早期発見・早期対応については、教職員にとってははっきりとした成果や結果が得られづらい内容でもある。しかしながら、問題行動についてはやはり早期発見・早期対応が重要であるため、全教職員が注意深く取り組んでいかなければならない。

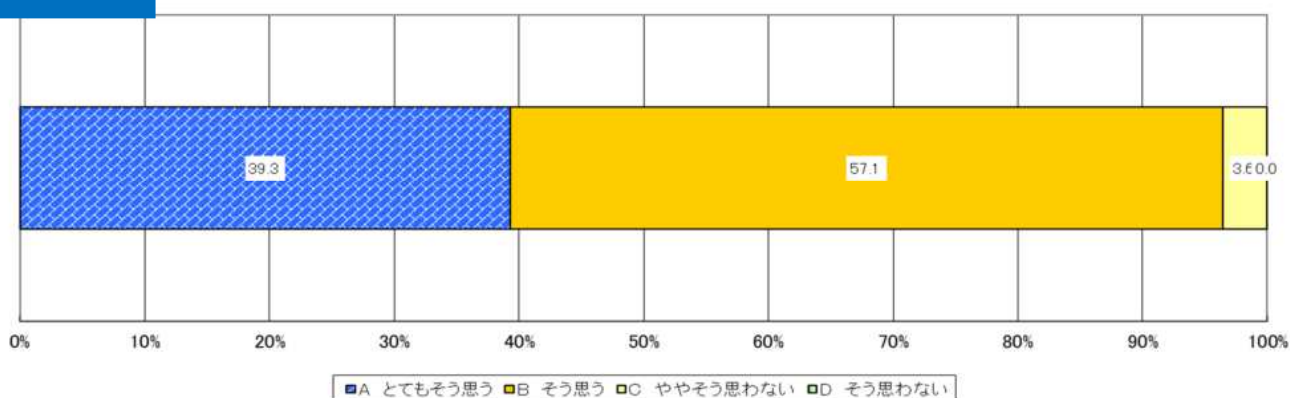
令和2年度

IV-4 あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。



令和元年度

IV-4 あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。



(2) 改善策

- ① 「生き方教育」は、各教科や総合的な学習の時間、特別活動など、学校教育全体を通して行うものである。外部人材を積極的に活用したり、校外学習やオンライン学習の取組を行ったりして、社会参画意識を高める教育活動を行っていききたい。
- ② 子供たちの問題行動については、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要である。できるだけ素早い対応ができるよう、日頃からの学級経営の充実を図ったり、児童・保護者とのコミュニケーションを深めたりしていく。児童とふれあう時間を確保するために、諸会議や行事の精選を行い、校務効率化を図っていくことも必要である。また、問題行動に対する組織的な対応ができるよう、SCやSSW、市の子育て支援課、県の児童相談所と連携しながら、全教職員の共通理解のもと、問題解決にあたっていく。

V 地域との連携について

(1) 達成状況

番号	V 地域との連携について 質問内容	令和2年度				令和元年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思う 回答率%	そう思わない 回答率%	とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思う 回答率%	そう思わない 回答率%
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	44.0	56.0	0.0	0.0	40.0	53.3	6.7	0.0
2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	40.7	55.6	3.7	0.0	34.4	59.4	6.3	0.0
3	あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	90.6	9.4	0.0	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0
4	あなたは、PTA活動に主体的に参加している。	57.1	42.9	0.0	0.0	40.6	56.3	3.1	0.0
5	保護者は、PTA活動に協力的である。	74.2	25.8	0.0	0.0	62.9	37.1	0.0	0.0
6	地域・保護者は、児童生徒の安全確保に努めている。	74.2	25.8	0.0	0.0	77.1	22.9	0.0	0.0
7	保護者は、学習指導や生活指導に協力的である。	67.7	32.3	0.0	0.0	48.6	51.4	0.0	0.0
8	あなたの学校は、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている。	64.5	35.5	0.0	0.0	68.6	28.6	2.9	0.0
9	あなたの学校は、地域協力者へ情報提供を行い、学校・地域の教育力向上に努めている。	71.0	29.0	0.0	0.0	77.1	22.9	0.0	0.0

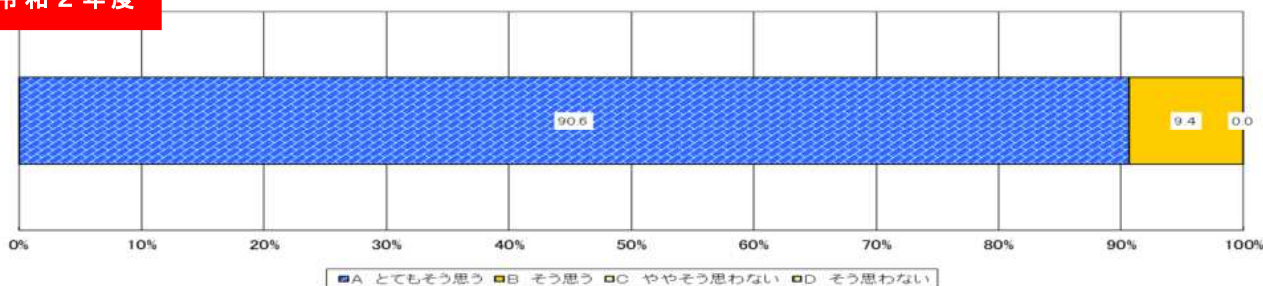
今年度は、コロナ禍の中、外部との連携した多くの事業を実施することができなかった。そのような状況下においても、保護者や地域住民による、毎日の子供たちの登下校の見守り等、様々な場面で協力を得ることができた。

学校の教育活動の発信については、「A:とてもそう思う」が90%以上であり、昨年度より高回答率であった。学校開放が制限される中、学校だよりやホームページを通して地域や保護者に迅速、確実な情報発信を行い、説明責任を果たすことができたと考える。

PTAとの連携については、「運動会」「公開授業研究会」においては、PTA本会役員を中心として、積極的な協力を得ることができた。

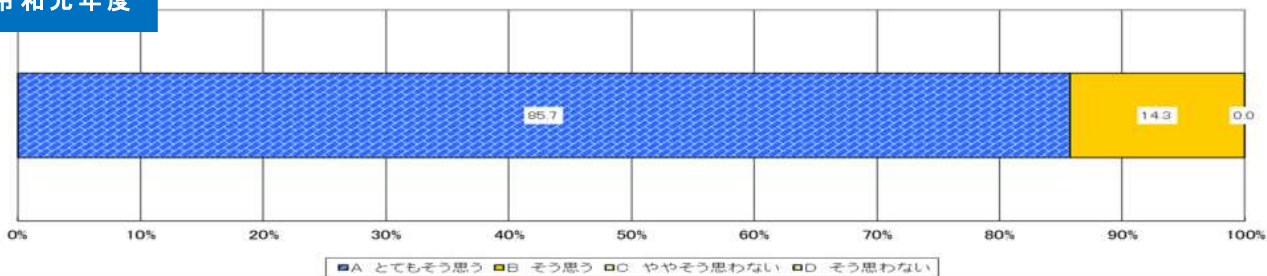
令和2年度

V-3 あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。



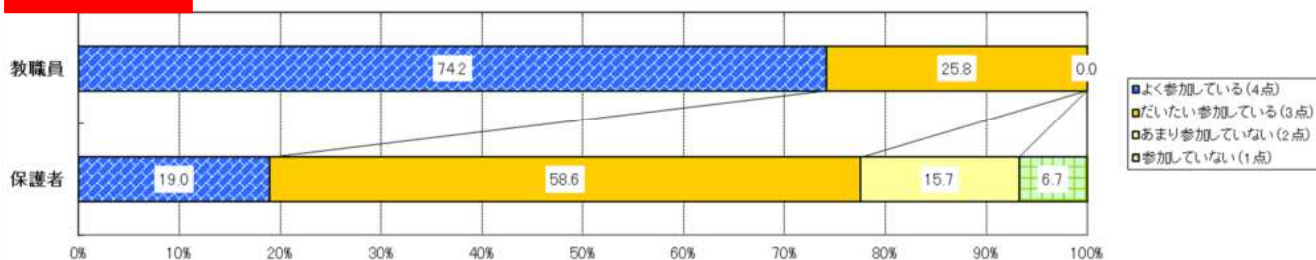
令和元年度

V-3 あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。



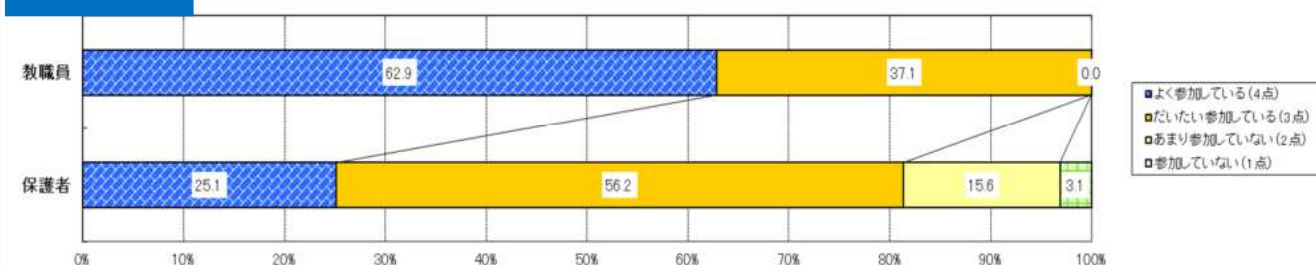
令和2年度

PTA活動に参加(TV-5、P-11)



令和元年度

PTA活動に参加(TV-5、P-20)



(2) 改善策

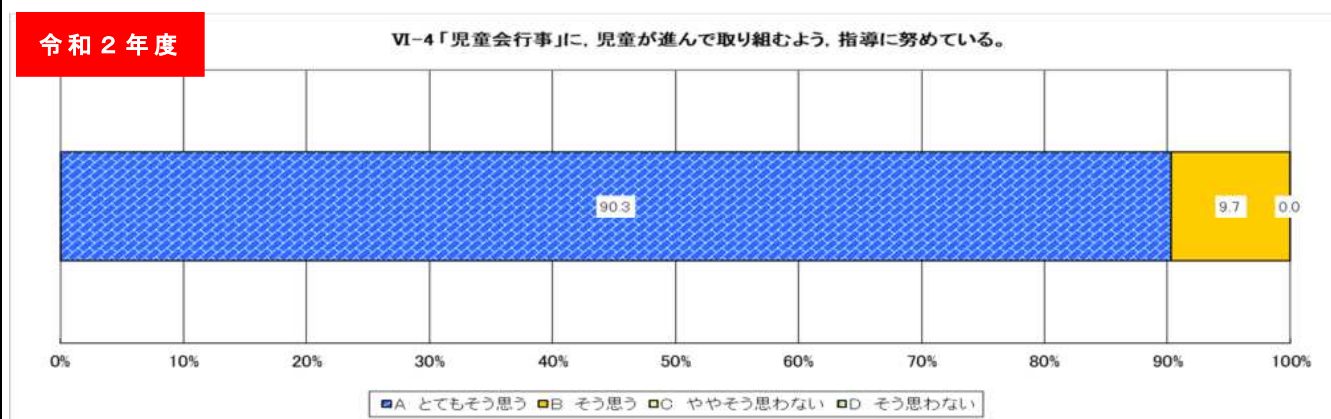
- ① 学校からの情報発信については、今後も継続して、学校だよりやホームページを積極的に活用していきたい。また、本校は、保護者への連絡手段として安心メールの加入率が100%で、学級連絡網を廃止することができた。個人情報保護の観点からも意味のあることである。安心メールとホームページを連携させることで、より効果的に情報を発信し、開かれた学校としての説明責任を果たしていきたい。
- ② PTA活動は、多くの会員が積極的に参加し、児童にとってよりよい学校にしていくことが大切である。今年度は十分に行うことができなかったPTA主催行事の取組を継続し、活性化を図る策を探していきたい。
- ③ コロナ禍により実施ができなかった「竜小協力者会議」等の地域連携事業については、次年度以降も確実に実施できるように、引継ぎを行うことが重要である。

Ⅵ 学校の特色に関して

(1) 達成状況

番号	Ⅵ 学校の特色に関して 質問内容	令和2年度				令和元年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思う	そう思わない
1	あなたの学校は、児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。	84.4	15.6	0.0	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0
2	あなたの学校は、授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的の実施している。	78.1	21.9	0.0	0.0	88.6	11.4	0.0	0.0
3	児童が積極的に「読書活動」に取り組むよう、指導に努めている。	74.2	25.8	0.0	0.0	79.4	20.6	0.0	0.0
4	「児童会行事」に、児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。	90.3	9.7	0.0	0.0	88.2	11.8	0.0	0.0
5	状況に応じて、日課表の見直しや時間割の工夫を行い、授業時数の確保に努めている。	77.4	22.6	0.0	0.0				
6	教育機器（ICT等を含む）を、積極的に取り入れた活動を行っている。	77.4	22.6	0.0	0.0	77.1	22.9	0.0	0.0

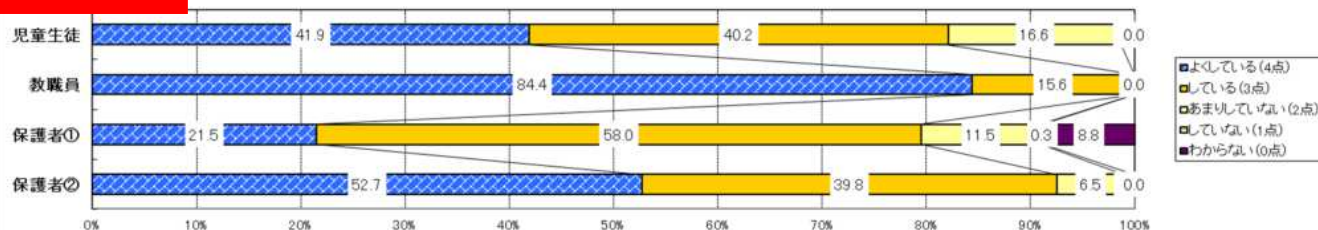
どの設問においても、肯定的評価が非常に高い数値を示した。教職員が入れ替わり、担任学年が変わっても、組織的な対応により、本校の特色を生かす指導ができていることを表している。特に児童会行事への取組などは「A:とてもそう思う」の評価が90%に迫る数値であり、教職員の意識の高さがうかがえる。



あいさつの状況については次に示すグラフのようになっており、昨年度とほぼ同じような結果が出ている。児童会が毎学期「あいさつリーダー」を任命し、毎朝、児童玄関であいさつを呼びかけている。また、竜王中学校と連携した「あいさつ運動」も行っている。しかし、保護者、地域の方と、教職員の意識の違いが鮮明になっていることが課題である。

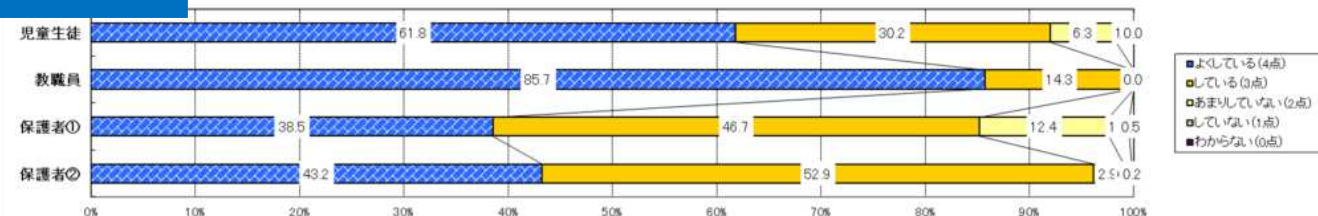
令和2年度

あいさつ活動～地域の人と挨拶をする/家庭で挨拶をする(C-21～23, TVI-①, P-20・19)



令和元年度

あいさつ活動～地域の人と挨拶をする/家庭で挨拶をする(C-18, TVI-①, P-18, P-17)



保護者①は、地域の人とのあいさつ、保護者②は、家庭でのあいさつの状況を表しています。

(2) 改善策

- 生徒指導主任を中心として、登下校時におけるあいさつの状況の把握に努め、今後も、道徳や特別活動において、あいさつの大切さを実感させていく。

3 まとめ（成果と課題）

I 学校教育目標・学校経営について	
成果	課題
◎学校教育目標を基にした学校経営と、それを受けた学校運営、教育活動の実施	●カリキュラムマネジメントによる確実なPDCAの実施 ●適材適所の人材配置
II 学校運営について	
成果	課題
◎教職員一人一人の主体的な参画 ◎コミュニケーションをとりながらの協働的な活動の推進	●危機管理マニュアルの的確な運用 ●ICTを活用した授業実践の選流 ●校務支援システムの積極的な活用
III 学習指導について	
成果	課題
◎基礎・基本の定着を図る授業の実施 ◎学習規律の徹底やよさのみ取りによる学びに向かう姿勢づくり ◎ICT活用等による学習意欲喚起	●OJTの積極的な推進 ●観点別評価規準の設定とその評価方法の明確化 ●家庭学習と連携した学びの啓発
IV 生徒指導	
成果	課題
◎児童理解のためのコミュニケーションの機会づくり ◎規範意識を育む生徒指導の充実 ◎きめ細かな指導に対する保護者、児童からの信頼	●社会参画意識を高める生き方教育の実施 ●問題行動の早期発見・早期対応のための校務効率化と組織連携
V 地域との連携	
成果	課題
◎学校だよりや学校ホームページによる迅速、確実な情報発信 ◎本会役員を中心としたPTAからの積極的な協力	●安心メールと学校ホームページのより効果的な活用 ●PTA主催行事の取組の継続 ●協力者会議を中心とした地域との連携の引継ぎ
VI 学校の特色	
成果	課題
◎児童が主体的に取り組む児童会活動 ◎児童会を中心としたあいさつ運動 ◎一人一人の児童を大切にしたい日課表や時間割の工夫 ◎教育機器の積極的な活用	●登下校時におけるあいさつの徹底

学校の特色については、学校長の指導の下、全教職員で共通確認をしながら進めて来ている。来年度以降も「チームドラゴン」として、特色ある、地域の学校としての役割を果たしていけるよう、全教職員一丸となって取り組んで行く。